

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立畑地小学校

1 自己評価書

教育目標 ふるさとを愛し、一人ひとりが輝く、畑地の子の育成					
基本方針 1 一人ひとりのよさを伸ばし、基礎・基本の定着を図りながら知・体・徳の調和のとれた児童の育成に努める。 2 ふるさとを愛し、ふるさに貢献しようとするシビックプライドの醸成を目指し、学校運営協議会と連携した地域とともにある学校づくりを推進する。 3 教職員の一人ひとりのよさを生かし、幅広い研修を通して、教職員の指導力と学校の組織力を高める。					
本年度重点目標 1 確かな学力を育てる教育の推進 2 特別支援教育の充実と人権・同和教育の推進 3 生きる力を育てる教育の推進 4 働き方改革の推進 5 安全・安心で充実した教育環境の整備 6 学校・家庭・地域が連携・協働した特色ある学校づくり					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B
	② 授業改善	zu	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
		ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B
		一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B	
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の読書習慣の定着が低いため、読み聞かせや朝読書の取組を行ったが、読書習慣を定着させることができなかった。</li> <li>iPadを使用している調べ学習等では、効果的に活用することができた。</li> <li>地域学校協働活動推進員の協力のもと、学校・家庭・地域が連携し、畑地地域ならではの教育活動を行うことができた。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も委員会活動等の取組や、読み聞かせ、朝読書も継続していく中で、読書活動への教職員の意識改革及び家庭への啓発を行っていく。</li> <li>探究活動を取り入れながら、子どもたちに小学校段階に必要な力を身に付けるための授業改善に今後も取り組んでいく。</li> <li>教職員が地域に出向き、地域の方々とつながりを作っていく中で、地域のために貢献しようとする意欲を持った児童を育成していく。</li> </ul>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B B	B
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B B	B
③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B B	B	
④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート ・教師アンケート ・児童アンケート	B B B B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員一人ひとりが、児童の様子をよく見て指導しており、学校全体が落ち着いている。</li> <li>自己肯定感や自己有用感を高めるための様々な工夫を行ったが、すぐには成果につながらなかった。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が落ちているため、SSWに相談する事案等は少ないが、SSWと教職員との連携及び人間関係作りを努める。</li> <li>今後も継続して、責任を持ってやり遂げた達成感等を体験させ、長い目で自己肯定感や自己有用感を育成していく。</li> </ul>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	B	B	
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B	
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を助けたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事と学習との両立が課題である。行事の精選を行いながら、地域と連携した行事は継続していく必要がある。</li> <li>・地域学校協働活動推進員さんと地域の方々とのつながりにより、行事等を協力していただいたことで、教職員の負担が軽減した。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等の計画的な運営や精選を行っていくことで、児童や教職員の負担を軽減していく。</li> <li>・働き方改革を推進していく中で、教職員間のサポート体制を充実させる。</li> <li>・今後も、教職員間でのコミュニケーションを大切にし、互いに助け合うことができる人間関係作りを努める。</li> </ul>							
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A	
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A		
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A		A
				・保護者アンケート ・地域アンケート	A A		
③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A B A	A		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々の温かい協力のもと、生活科や総合的な学習の時間等の教育活動を充実させることができた。</li> <li>・地域学校協働活動推進員さんが中心となり、地域の方々とのつながりができている。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々の体験活動を充実させ、子どもたちが意欲的に教育活動ができるように計画的に準備を行っていく。</li> <li>・地域及び学校運営協議会委員の方々の温かい協力に感謝の気持ちを持ち、今後も主体的に行動できる児童を育ていく。</li> </ul>							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満